

◆11番（たかおか知子君） =登壇=会派あしやしみんのこえの、たかおか知子です。

質問通告に従いまして、当局の広報に対するお考えをお尋ねいたします。

市民の皆様は、施策や議事のプロセスにおいても知る権利があり、情報公開の規則に反していなければ、市が主体性を持って情報発信することは何の問題もなく、問題となることのほうが情報公開の義務から考えて間違いであると考えております。

つまりは、行政は議会の議決の結果に限らず、議決前の事業計画や施策など、今、当市が直面している一定の方向性や今後の考えを前段階で市民に伝え、常に情報を共有しながら市民の意見を反映するまちづくりや市政運営を行わなければなりません。

また、情報を広報したことの反応によって得られる多くの市民の皆様のお考えが分かってこそ、当市が本当に進むべき市政の在り方が見えてくるのではないのでしょうか。

市民の皆様は、正確な情報を迅速に公開してくれることを当市に強く求めており、なぜなら、それが私たちの生活に大きく直結してくることだからです。新型コロナウイルス感染症対策の情報に至っては、生命の危機に関する内容でもあるのです。

市税を納めている市民に向けて、市の考えが正しく伝わっていないということは、市民に情報を共有する権利を当市が果たせていないということにもつながり、情報の伝え方、または伝わり方は最も重要であります。当市が積極的に情報を発信することで、行政に対する市民の理解が深まり、さらにそこから得られる市民の声が市政に生かされることを私は望んでおります。

そこで、お尋ねいたします。当市の広報の在り方について、市長はどのように捉えているのかお伺いいたします。

壇上からの質問は、以上です。

○議長（松木義昭君） 答弁を求めます。

いとう市長。

◎市長（いとうまい君） =登壇=たかおか知子議員の御質問にお答えいたします。

広報活動は、市民の皆様が市政へ主体的に参加できるよう、必要とする情報や行政がお知らせすべき情報を分かりやすく迅速かつ効果的に発信することを目的としており、「知る権利」に応えるためにも事業活動などの現状や市の考え方をお知らせしながら、市民の皆様とコミュニケーションを取っていくための大切な手段だと考えております。

そのためには、市政モニター制度など市民との双方向の関係を重視し、広報活動につなげていくことや、様々な広報媒体の特性を生かして、適時適切に情報をお届けできるよう努めてまいります。

以上でございます。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 御答弁ありがとうございます。

それでは、こういう広報戦略が必要なのではないかと、これまで当市で起こった出来事を例に挙げて質問させていただきます。

まず初め、市民に情報を伝えるタイミングが遅いのではないかと感じるものが最近の事例でありました。6月9日の民生文教常任委員会では、新型コロナワクチン接種の所管事務調査が行われたばかりですが、そこで当局

との質疑で、7月末までに65歳以上の接種を完了する予定であるということ、そして、64歳以下の接種に関する補正予算を確保している状態であること、こちらは議員が確認できたわけですが、ところが次の日の6月10日の神戸新聞に、このような記事がありました。

64歳以下接種券の発送開始時期について、41市町村の中で芦屋市が一番下の区分「未定・検討中」と書かれておりました。この情報だけを御覧になって、芦屋市は64歳以下の接種について、まだ何も取りかかれていないのかと思われた方もいたのではないかと私は危惧しております。

そこでお尋ねいたします。時系列でいくと、新聞報道の内容のほうが正しいものなのか、また、そのことがマスコミに伝わっていなかったのか。マスコミへの情報の伝わり方について、その辺りの状況を教えてください。

○議長（松木義昭君） どなたがお答えになりますか。

佐藤副市長。

◎副市長（佐藤徳治君） 御答弁させていただきます。

民生文教常任委員会後に、発刊されました記事――神戸新聞だと思うんですけども、に關しましては、取材を受け入れた時期との前後関係が錯綜しておりまして、それがそのまま記事になってしまったということ。

現在お願いしております所管事務調査の予定の中で、改めて御報告申し上げるんですが、12歳以上に対しまして接種券をお配りさせていただく内容、その時期、受付開始時期などにつきましても検討を終えた段階ではございますが、これを広報するという手続に一部、手順が残っておりますので、今は本市はその段階にございます。

したがって、6月10日には、内部の意思決定はできておりましたが、これとて、例えば具体的に申し上げますと、個別接種をお願いしております医師会との関係でございませうとか、あるいは土日に派出いただいておりますドクター、看護師、薬剤師の関係とか、いろいろ細部について、詰めを残しておりますので、そのタイミングで色よい報道にこぎ着けることができなかつたというのが実態でございませう。申し訳ございませう。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 今回の件まで詳しく御説明いただき、ありがとうございます。

私が気になったのは、今回、記者との取材で情報のタイムラグというのが、前後してあるということが気になったんです。そういうことがあるのであればなおのこと、報道機関に対して取材元がいつ発表するかというタイミングも分からないのであれば、新しい情報はどんどんホームページにスピード感を持って掲載していたほうが、市民も判断を迷うこともないと思うんですが、この辺りのホームページのスピード感について、この大切さについて、どのようにお考えでしょうか。

○議長（松木義昭君） 田中企画部長。

◎企画部長（田中徹君） もちろん市民にお伝えする情報、必要な情報ですから、正確性とスピード感を第一に考えているところではございますけれども、それぞれのケースにおいて、慎重さが必要であったり、いろいろと状況が異なりますので、できるだけ早くということは常に心がけているところでございます。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） できるだけ早くということですが、もう一つだけ事例をお伝えさせていただきたいんですけども、こども・健康部から議員各位に届いた報告メールの中で、6月10日の17時以降、潮芦屋交

流センターで予定していました新型コロナワクチン接種用のワクチンを78回分、破棄したということと、その後の20時頃に、75歳以上の方の予約開始が6月14日から11日に前倒しになったという報告を受けたわけなんですけれども、市の広報手段の中で、いち早く情報を出されているのはホームページだと思うんですが、この内容はどのタイミングで掲載できたのか教えてください。

○議長（松木義昭君） 岸田こども・健康部長。

◎こども・健康部長（岸田太君） 今の御紹介の記事につきましては、翌朝早々にアップできたということでございます。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 私どもには夜に連絡があったんですが、市民の皆様には翌朝ということで、予約を前倒ししてできたということで、逆に情報の伝わりが遅いと、御参加いただく肝腎の市民の方に情報が伝わっていないということでは、当局の頑張りが半減するようにも思うんですけども、こういった緊急時の場合のホームページへの時間外の掲載に関する連携とか対応はどのようになっているかお伺いできますか。

○議長（松木義昭君） 田中企画部長。

◎企画部長（田中徹君） これもケースによっていろいろと、できる限りスピード感を持って取り組んでいるところでございますけれども、ふだんの取扱いといたしましては、まずは議員の皆様にお知らせした上で、マスクミのほうへ情報提供させていただくと、基本的にはそういう段取りで取り組んでいるというところでございます。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） すみません、時間外の掲載というのは、職員さんの仕事量にもなりますし、ちょっと難しいということでしょうか。

○議長（松木義昭君） 田中企画部長。

◎企画部長（田中徹君） 必要であれば時間外にも掲載するという事は、もちろん実施しております。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 緊急時の対応、ありがとうございます。

これは余談なんですけど、メールの連絡を受けまして、私はすぐに2つの情報を自身のSNSでお知らせさせていただいたんです。市民の方の反応としては、第一声が「迅速に教えてくれてありがとう」だったんです。

ミスはある程度仕方がないし、皆さんよくやっているとしますという逆にねぎらいの言葉が多かったんですが、そこで私が広報戦略で必要だと思う1つ目は、やはりスピード感だと思います。迅速に対応している行政の姿勢を見せてこそ、そこから与えられる安心感で、市に対する信頼が構築されると考えたからです。

では、次の事例について、お伺いする前に、先にこちらの質問をさせていただきます。

マナー啓発など市民の方に、市からお願いして守っていただかないといけないことがあった場合、本市として

広報の在り方について、どのような点を重視しているのでしょうか。

○議長（松木義昭君） 田中企画部長。

◎企画部長（田中徹君） 啓発的な広報ということでございますけれども、啓発につきましては、時間をかけてすることも必要だと思いますし、市長からも答弁させていただきましたように、昔はお知らせ広報ということで、お知らせするだけというようなことを言われた時代もございますけれども、今現在は対話型の広報が必要であるということも言われておりますので、啓発についてお知らせして、それに対する反応を市民から頂いて、それをまたフィードバックする形でお知らせとかそういうことにつなげていくというふうな広報ができるように心がけているところでございます。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） お知らせというところのニュアンスが、私と合っているかどうかというところで、なぜこのような質問をしたかという、環境処理センターでは水銀濃度の超過に伴う焼却炉の停止や、つい先日は、ばいじん処理物が基準値に適合せず、搬入受入停止措置を受けたばかりだということがあったんですが、その際、今後の対策として、ごみの分別を守っていただくように啓発を徹底するということがあったかと思えます。

例えば、おもちゃの電池を抜き取らずにそのまま捨てていると水銀濃度が上がってしまうということとか、ばいじん処理物の基準値超過となる対象ごみとして、トレーニング用品や釣りのおもり、ゴルフクラブのヘッド、生け花の剣山などに至って影響するというを知っていた人がどれぐらいいたのかなと私は思ったんです。

そこで、市民の方に、ただ、ごみの分別を守ってくださいと言う前に、まず、この製品、この生活用品を捨てることで、ごみ処理場が稼働しなくなるということをしっかり知ってもらう。何がどうしてダメなのかという共通認識をまず持ってもらうことが必要だと思っているんですが、いかがでしょうか。

○議長（松木義昭君） 田中企画部長。

◎企画部長（田中徹君） もちろんそういうことも含めて、詳しく説明させていただくことも必要だと思いますし、そういう考え方を職員全員で共有する、持つことが大事だと思っておりますので、対外広報もそうでございますけれども、庁内の職員のそういう研修といいますか、そういうことにも努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 再確認ありがとうございます。

というわけで、広報戦略として必要だと思う2つ目は、共感または共通認識を持つということでした。

次の事例です。南芦屋浜の住民意識調査アンケートを実施したときのことで。

アンケートの中で、潮芦屋センターゾーンⅡ期南ブロック用地での2か所のテナント変更計画を説明文でお知らせしたところ、回答者419人中230の方が、今回の私のアンケートでこのことを知ったと回答されました。

この結果を見て、私は思ったんです。南芦屋浜のまちづくりは、住民の意見を拾い、共につくり上げていくという方針を、当市は過去から現在まで掲げています。しかし、ほとんどの市民が欲しい情報を知るときは、いつも何かが決まった後だという印象を受けています。行政が小学校建設白紙撤回を発表したときもそうでした。

これでは市民に向けて住民説明会やパブコメなどの過程を踏み意見を求めても、市民はアンケートに答えようがないです。まず地域住民に正確な情報を知ってもらう、そうすることで自然と受け手から反応が返ってきて、自発的に双方間—先ほど市長もおっしゃっていますね、双方間のやり取りがようやく発生して、それが本当の市民参画じゃないかなと思うんですが、違いますか。

○議長（松木義昭君） 辻都市建設部長。

◎都市建設部長（辻正彦君） 今、たかおか議員に言っていただいたように、双方向で地域の皆様とつくり上げていくというほうが応援もしていただけるので、なるべくそういうふうに持っていきたいというふうに思っております。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） そうですね、その双方間で意見を求めて出してもらうには、私は、そのためにも情報をどんどん見える化して、どうなっているかということ伝えることが必要かと。これを3つ目の広報戦略として挙げておきます。

市民の意見を求める前に、まず必要なのは、今の状況を正しく伝えて知ってもらうことではないでしょうか。つまり市の情報発信の見える化の大切さです。

次に、つい先日こんなことがありました。これが最後の事例です。

市の広報番組あしやトライあぐるの2021年2月後半の放送の中で、J R芦屋駅南地区再開発事業についての特集がありました。委員会で一部の委員から、偏った一方的な内容を放送していると問題提起がなされましたが、これを受けて行政は今後どのような姿勢で広報されていくおつもりなのか、再確認もかねてもう一度お願いします。

○議長（松木義昭君） 田中企画部長。

◎企画部長（田中徹君） 広報番組あしやトライあぐる及び広報紙につきましては、J R芦屋駅南地区再開発事業調査特別委員会でもいろいろと御指摘いただいたところでございます。

市民の皆さんからのJ R芦屋駅前はどうかっているんだという声に基づいて、我々は広報チャンネルなり広報紙で特集をしたわけですが、その企図するところは間違っていなかったとは思っておりますけれども、委員会で御指摘いただきましたバランスでありますとかそういうことにつきましては、今後も十分に配慮した上で取り組んでいきたいと、そういうふうに考えております。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） よく分かりました。

私は今から、これまで出てきた意見とは全く真逆のことを言わせていただこうかと思っているんですが、何人かの方に私も動画を見てもらいましたが、私の周りでは、あれのどこがいけないのという意見のほうがほとんどでして、私も個人的には放送の内容は全く問題ないと思っています。

放送内でインタビューの御意見が、事業を推進する声が多かろうが反対する声が少なかろうが、市として計画の中で、経過してきた中で、事業計画を推奨しているわけですから、その部分を強調して、その反応として返ってきた意見を届けるのも当然の権利と私は思っています。

むしろ議員が執行者の行政に対して、問題として取り上げることが認められるならば、それこそ議員が情報を覆い隠そうとしていることであり、有権者に対する背徳行為にもなるかと思っています。それに従う行政も、市民に向き合っていないということになります。

また、市は、市民に対して情報を提供する義務があります。非公開の情報を公に出しているわけでもない限り、議会が行政の広報内容について指示するということは、執行権に対する侵害行為であり、行政の役割、議会の役割として、市民への情報を、それぞれが伝える責務を果たせばいいだけのことだと私は思うんです。つまり市民は、市長や行政の考えを聞きたいんです。情報を発信する執行権は行政にあり、主権者は市民ということなんです。

そこで4つ目の広報戦略として、主体性を持って広報することが必要だと考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（松木義昭君） 田中企画部長。

◎企画部長（田中徹君） もちろん主体性を持って広報していくということは非常に大切なことだと考えております。

ただし、それぞれのケース、状況によっていろいろとバランスなり、そういうことの配慮は必要だと考えておりますので、先ほどと同じ答弁になりますけれども、先日の広報につきましても、企図したところは問題なかったと考えておりますけれども、結果的にはいろいろと御指摘いただいておりますので、そういうところには今後、配慮して取り組んでいきたいというふうに考えているということでございます。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 一定の配慮というのは議会に対してですか。

○議長（松木義昭君） 田中企画部長。

◎企画部長（田中徹君） それは賛否の取扱いでありますとか、要するに意見の異なるものへの取扱いの配慮ということでございます、結果的には市民への配慮、こういうことでございます。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 私は、冒頭からずっと議会の議決結果にかかわらずと言っているんですが、賛否の途中結果であってもその経過を市民は知る権利があるんです。それを賛否に配慮するということは、その辺りの情報を市民には伝えないというような捉え方にちょっと聞こえてしまうんですが、もう一度確認させてください。

○議長（松木義昭君） 田中企画部長。

◎企画部長（田中徹君） 市民に伝えないということではなくて、意思形成過程で、議決も最終的な段階、意思決定の途中の一つの過程だと思っておりますけれども、たとえそこに至るまでの当局内の意思決定過程でありましても、出せるものは出して、市民の方に御意見をお伺いしながら、意思決定していくということも大変重要なことだと思っておりますので、その状況に応じて、できるだけオープンにする形の中で取り組んでいきたいとい

うふうに考えております。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） それでは、最後にします。

市長が掲げられている「OPEN芦屋」ですが、市長は先ほどコミュニケーションを大切な手段とおっしゃっていましたが、そういった中で、今回、広報戦略について私はずっと言ってきたんですが、市長が目指される「OPEN芦屋」としての広報戦略は何かありますか。

○議長（松木義昭君） いとう市長。

◎市長（いとうまい君） 1回目の答弁でも申し上げましたけれども、正しい情報を迅速かつ的確に発信させていただきたいと思っているのが、まず1点と、双方向でのやり取りができるようになればいいなと思っております。

この間、ワクチン接種のことに关しましては、情報がなかなかスピーディーに出せていないということは反省させていただいております。

○議長（松木義昭君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） いろいろと庁内の連携もあると思いますが、その辺りも考慮しております。

市の広報戦略として、最後に、私が大切と感じることをまとめさせていただいて終わります。

1つ目、迅速な情報提供が求められるスピード感。2つ目、共通認識を持つことでの共感。3つ目、施策の発端から決定まで、実行までの見える化。4つ目、行政が主体性を持つ内容を発信。こういったところを意識して、常に市民に顔が見える身近な情報発信を目指してほしいと要望して、終わります。